

ご挨拶

## 200年は歴史の通過点。 「不易流行」の精神で、さらにその先へ。

2023年(令和5年)、角文は、おかげさまで創業200周年を迎えることができました。これもひとえに、お客さま、取引先さま、社員とご家族をはじめ、当社と共に歩んでくださったすべての皆さまのご支援とご厚情の賜物であり、心より感謝を申し上げます。

角文の歴史は、1823年(文政6年)、鈴木家4代文助が「角屋」を創業したことに始まります。「角屋」の「文助」だから「角文」。木材の焼印としても使われた「角文」の名はやがて各地で知られるようになり、江戸後期から明治・大正・昭和・平成・令和といくつもの時代にわたり200年の伝統を築き上げてきました。

「角屋」2代目を継承した鈴木家5代文助は、木材の販売・建設請負業を拡大して角文の事業の礎を築き、3代目・鈴木三郎は“お客さま第一”の精神を角文に深く根付かせました。4代目・鈴木孝平は、角文建設や神屋ハーネス(現・ジーエスエレクトック)を設立するなど、角文をグループ企業へと発展させました。

そして1990年(平成2年)、先人たちの功績を受け継ぎ、私、鈴木文三郎が角文5代目に就任。新本社ビルの建設、角文木材工業からすまいの角文への社名変更、CI(コーポレート・アイデンティティ)の導入、国内初の一般定期借地権付分譲マンションの販売など、さまざまな新しいことに挑戦してまいりました。2009年(平成21年)には、すまいの角文と角文

建設の合併により、現在の角文がスタート。近年は、住まい、商業施設、医療施設、オフィス、ホテルなどの生活機能を集約したコンパクトシティの事業化をはじめ、地域密着型のまちづくりにも取り組んでいます。さらに、SDGsという言葉が使われる以前から持続可能な社会の実現にも積極的に貢献。多様な活動を通して環境保全や社会貢献に取り組み、豊かな未来づくりと地域の活性化をめざしています。

時代が変わり、世の中も大きく変わるなかで、私が企業理念として大切にしているのは、「不易流行」という言葉です。顧客第一や地域密着など企業として変えることのない「不易」。一方「流行」は、理念を実現するために変化させていかねばならない手法のこと。時代に流されることのない理念を持ちつつ、最新の技術を導入し新しいビジネスモデルを創り上げていく。その積み重ねが、この先の角文の歴史になっていくと考えます。当社はこれからも、お客さまや地域社会から必要とされる企業であり続けるべく、社員一同「不易流行」の精神で励んでまいります。今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、200年史の編纂・発刊にあたりご協力いただきました各位に対し、心より御礼を申し上げます。本書は、当社の200年の歩みと未来への思いをまとめた一冊となっております。ご高覧いただき、皆さまへの感謝の気持ちを感じ取っていただければ幸いに存じます。



角文株式会社 代表取締役社長  
鈴木 文三郎



特集

特別対談

「福井県 黒龍酒造・水野社長を訪ねて」

特集 200年企業が守り継ぐもの 「福井県 黒龍酒造・水野社長を訪ねて」

# 2000年企業が 守り挑むもの



スマートフォンまたは携帯電話で二次元コードを読み取ると、角文株式会社のYouTubeチャンネルに遷移します。対談の動画をご視聴いただけます。  
※動画配信は、都合により中止する可能性があります。

「黒龍」や「九頭龍」の日本酒ブランドで知られる黒龍酒造は、

角文と同じく創業2000年を越える老舗企業。

2022年には、福井県永平寺町に約3万坪の酒蔵観光施設「ESHIKOTO(エシコト)」をオープンし、

日本酒の新しい可能性を発信している。

歴史ある企業を承継し、未来に繋ぐためには何が必要で何をすべきか。

鈴木文三郎社長が黒龍酒造代表・水野直人氏を訪ね、

「2000年企業が守り挑むもの」をテーマに対談を行った。

## 鈴木文三郎

角文株式会社 代表取締役社長

愛知県刈谷市出身。早稲田大学商学部卒。三井不動産販売を経て1983年角文木材工業(現・角文株式会社)に入社。1990年代代表取締役就任。

## 水野直人

石田屋二左衛門株式会社 代表取締役社長

福井県出身。東京農業大学醸造学科卒。協和発酵(当時)での勤務を経て1990年黒龍酒造に入社。2005年代表取締役就任。

対談の舞台は、禅の修行道場としても有名な永平寺から車で約10分の場所にある「ESHIKOTO」。目の前には福井県のシンボルでもある九頭竜川(旧名:黒龍川)を望む壮大な自然が広がる。

※「ESHI=えし」は「良し」を表す古い言葉で、「ESHIKOTO=良しこと=良いこと」の意味を持ちます。また、逆から読むと「とこしえ=永久」になることから「永久の豊かな時間」という想いも込められています。